

常任委員会

— 行政視察 —

各常任委員会では、議会活動の一層の充実を図るため、先進都市の優れた行政や施設などを視察し、今後のまちづくりに役立てていきます。

【総務委員会】
期日▼平成24年1月
10日～12日

場所▼静岡県沼津市
神奈川県小田原市・
藤沢市

内容▼本市において新消防庁舎の建設に向けた検討が始まったことから、沼津市の民間資金を活用した消防庁舎建設事業(PFI)を視察しました。PFI方式の導入により財政負担の縮減が期待される反面、事業開始から引渡しまでに時間が掛かるとのことでした。また近代的な消防庁舎の施設を見学し、本市の新消防庁舎を整備するうえで大変参考となる事例でありました。

小田原市では「おだわらTRYフォーラム」を視察しました。新たな総合計画に多数

の市民の声を取り入れるために、無作為抽出された200名の市民が65のテーマについて討議し、生活者の視点からのアイデアを行政が受けとめていました。

また、藤沢市では市民の利便性向上と担当課の事務量の軽減を図るため、行政手続のオンライン化を進めているとともに、システムの最適化と経費の削減に取り組んでいました。

【文教厚生委員会】
期日▼平成24年2月
13日～15日

場所▼福岡県北九州市
山口県下関市・宇部市

内容▼北九州市では、子どもの感性を育み、子育て中の親が持つ負担や不安感を解消し、子育て支援の地域活動の活性化を図ることを目的とした、子育てふれあい交流プラザを視察しました。

館内は、木のぬくもりを感じながら遊べる広場など、親子が自由に交流できる、広い空間が提供されていました。

下関市立中央図書館は、図書館と生涯学習施設機能を有する市民の文化活動の拠点に

なっていました。また、開館当初は全国唯一、読書欲の喚起に役立てようと、読書通帳を導入していました。

宇部市は、障害者の就労を支援するため、市役所も一事業所として、障害者を積極的に雇用し、働く意欲のある障害者の自立を促進していました。

【環境経済委員会】
期日▼平成24年2月
8日～10日

場所▼福岡県福岡市
熊本県熊本市
鹿児島県南九州市

内容▼福岡市では財政状況や人員削減など厳しい行政運営を強いられている中、平成20年度に「共働事業提案制度」を創設し、市民から提案を受けた「ひきこもり青年社会参加支援事業」などを展開し、行政と市民が一体となったまちづくりを推進していました。

平成23年3月の九州新幹線開業を見据え、熊本市では熊本城馬場地区に歴史文化体験施設などを有する観光施設を整備しました。整備完了後の約10ヶ月の入場者累計数は約124万人を数え、順調に整備の効果が見れていました。

南九州市では、収穫前を表す黄色い旗の設置や認証制度への取り組み、病虫害発生予防フェロモントラップ(ムシダス)を設置するなど、広く消費者に受け入れられる環境にやさしい健全な農業、生産性の向上及び経営安定を目指していました。

【都市建設委員会】
期日▼平成24年2月
13日～15日

場所▼愛知県豊橋市・田原市
静岡県掛川市

内容▼豊橋市では、「豊橋東口駅南土地地区画整理事業」について、視察しました。

当事業は豊橋駅周辺を拠点地区として、鉄道再編を伴う土地地区画整理事業を実施することにより、低・未利用地の有効利用を図り、高度な都市機能の導入を可能とする基盤整備を推進しております。

駅前商業ゾーンと生活商業ゾーンの2つに分け、41の事業に取り組むなど、具体的な中心市街地活性化策が示され、大変参考になりました。

田原市では、「渥美半島の花浪漫街道 アクションプラン」について、視察しました。

渥美半島の魅力や美しさを発見し、地域資源を活かした原風景をつくり上げていく運動を市内全域で進め、観光振興や地域の活性化を図ることを目的とした事業であります。

取り組みを推進する組織として、市民、事業者、行政等を取り込んだパートナーシップ会議が母体となり、日々、改善策に取り組む前向きな姿勢が感じられました。

掛川市では、「緑の精神回廊」について視察しました。

この事業は、防災と美観の公共空間を兼ね備えた、緑あふれる歩道のネットワークを整備する事業であります。

城郭エリアを整備し、来訪者は増加傾向にあるものの、中心市街地まで流入が少ない中、来訪者の増加を地区全体の活性化にどう結び付けるのか、大きな課題も感じました。

● 議会報編集委員会 ●

委員長 寺内 充
副委員長 吉田 千鶴子
委員 久松 一 猛
海老原 一 郎
川原場 一 明
福田 一 夫